

幕張サン・ハイツ自主防災会広報

No.4

幕張サン・ハイツ自主防災会 2016.10

災害発生時のトイレ事情

災害発生後、トイレは使用禁止になる!?



すぐに詰まってしまう
可能性大!

過去の大災害などでも、避難所の水洗トイレをたくさん的人が使用して、すぐに詰まってしまった事例が多数報告されていることから、避難所指定とされている施設などでは、緊急時には「既存のトイレを使用させない」と決めているところがほとんどです。

混乱を防ぐために、不特定多数の人が利用するトイレでは、災害時に「水が流れないトイレ」「下水が破損しているトイレ」は使用禁止が原則となることを、認識しておく必要があります。

また、各家庭でも、大規模な地震の際は、まず、お風呂の残り湯などで、トイレに水を流し、自宅トイレ内で溢れ出すことがないかを確認する必要があります（集合住宅の場合は、下階のお宅への影響にも配慮しましょう）。

始めは順調に流れても、徐々に詰まり始めることもあるので、しばらくは注意が必要です。

配管の無事が確認できるまで排水はできません。非常用トイレなどを使用して様子をみるようしましょう。

トイレの使用回数は、
ひとりあたり
1日平均 5~6回



※お手洗いの近い方やお年寄り、また、冬場のご使用の場合は、多少回数が増えることがあります。

各戸で、1週間分の非常用トイレを用意しましょう

[目安] 6回(1日、1人)×7日×家族の人数

例えば、4人家族の場合、168個(6個×7日×4人)

簡易トイレ(洋式トイレ)の使用方法

被災中に最もストレスになるのが、断水し水が流せないトイレです。
被災時生活用品の中では最も必要なものが非常用トイレセットです。

(1)事前準備

事前に市販されている「非常用トイレ」を購入する。
非常用トイレは、汚物袋(ビニール袋)と凝固剤と消臭剤からなります。

(2)用をたす

- ①非常用トイレ(汚物袋、凝固剤、消臭剤)を持って、簡易トイレに入る。
- ②汚物袋(ビニール)を洋式トイレの便座にセット(ゴミ箱、段ボールなどでも可能)
- ③排泄したら、付属の凝固剤及び消臭剤を汚物にふりかける。
- ④固まったら、汚物袋を袋に接着してあるビニール紐でしばる。
- ⑤汚物は指定された場所または各自宅で指示があるまで保管する。



メモ